

アナトリア南部の Abdal (Teber) に関する調査報告

林 徹

(東京大学)

ファールク・ユルドゥルム

(チュクロバ大学)

対象言語 Abdal (Teber)

調査地 トルコ共和国オスマーニエ県およびアダナ県

調査日程 2003年9月17日～2003年9月21日

1. はじめに

Abdal と呼ばれる集団が、新疆ウイグル自治区や中央アジアだけでなく、トルコにも分布することは Von Le Coq の調査報告などにより、すでに知られている (Tietze 1982)。2003年夏のトルコにおける調査の中で、Abdal と呼ばれている人たちに接触し、できればその語彙を調べたいと考え、9月中旬に5日間トルコ南部のアダナに滞在した。まず、アダナにおいて Abdal と呼ばれる人々に関する情報を集めたが、Cono (「ジョノ」；なお以下では特にことわらない限り、トルコ語の名称はトルコ語の表記で示す) などの他の集団と混同されているようで、なかなか実態を知ることができなくなった。そこで、アダナ・チュクロバ大学を訪れ、言語学およびチュルク学関係の研究者の意見をうかがった。その際に Faruk Yıldırım 氏から、Abdal とよばれる人々が周囲のトルコ語方言とは異なる語彙を持つという情報を得ることができた。Yıldırım 氏は、長年チュクロバ地方 (Çukurova; アダナを中心に広がる平野) におけるトルコ語方言の分布について研究を進めている。チュクロバ地方の方言を調査している間に Abdal の人々とも接触する機会があり、本来の研究目的から外れるため、これまで調査を行ったことはなかったが、Abdal の語彙には以前から興味を持っているとのことだった。

そこで、今回予備的な調査を共同で行うことを決め、協力者を捜すことになった。幸い、アダナにあるチュクロバ大学に所属する Ömer Aslantaş 氏が、さらにその知人の Yahya Yaş 氏を紹介してくださり、2003年9月19日、お2人の案内で我々はオスマーニエ県の Düziçi 郡にある Üzümlü 地区に向った。

以下でこの予備調査の概略について報告する。なお、報告の文責については林が負うが、調査の実現は Yıldırım 氏に全面的に負っている。そのため、林と Yıldırım 氏の共著という形で発表するのが適当であると判断した。

2. 調査地とコンサルタント

オスマーニエ県は、かつてアダナ県のひとつの郡 (ilçe) にすぎなかったが、現在はアダナ県から分離し、別の県 (il) となっている。Düziçi 郡はその南東部に位置し、カフラマン・マラシュ県、ガーズィ・アンテップ県、ハタイ県に近い。以前はHaruniye と呼ばれていた。

Üzümlü 地区 (mahalle) は、かつて Çamiçi 村 (köy) に属していたが、その後、村から分かれて Düziçi 郡に併合され、現在に至っている。

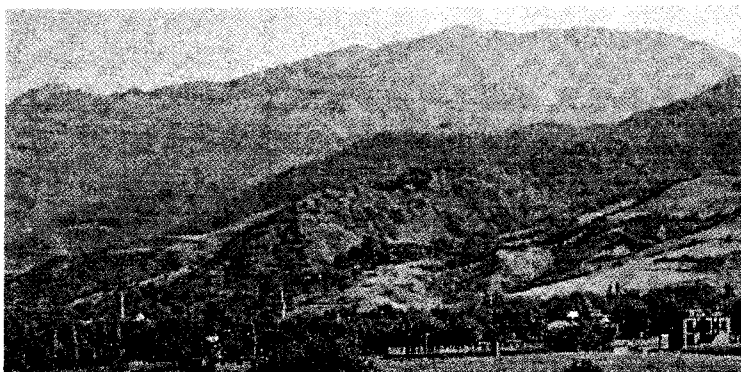


図 1 : Düziçi 周辺の光景

Üzümlü 地区に到着後、まず村はずれの kahve (コーヒー店) に入り、20人ほど集まっていた老人たちに我々の来訪の目的などを説明したのち村に入った。コンサルタントになっていただいたのは、1949年にオスマーニエ県 (当時はアダナ県) の Kadirli で生まれたMF氏 (男性; ただし、少なくとも60才以上に見える)。その後カフラマン・マラシュ県の Andırın でしばらく暮した後、約40年前に Düziçi に移住し、現在は Üzümlü 地区の家に家族 (妻、息子たち、孫たちなど) とともに住む。婚礼などに息子たちといっしょに出かけてズルナ (木管楽器の一種) を演奏し生計を立てている。MF氏によれば、その先祖はホラサンからやってきたそうであるが、これはアナトリアでよく聞かれる伝承と同じである。MF氏の家族は [mustaptal] (Mustafa Abdalか?) という ocak (同胞集団) に属しているとのことだった。



図 2 : コンサルタント (右から 2 人目) との記念写真

3. 調査地周辺の Abdal について

Düziçi 周辺の地域にいる Abdal と呼ばれる人々について、まず MF 氏に質問した。その回答は以下のようであった：

Maraş, Andırın, Osmaniye, Kadirli に Abdal の人々がいる。特に Maraş には多い。Osmaniye (の町) では、Hastane mahallesi, Tren Yolu, Mal Pazarı などにいる。Adana には知り合いがたくさんいる。とくに Karşıyaka に多い。Sirifke にもいると聞いているが、知り合いはいない。Maraş, Adana, Osmaniye の Abdal の家族と通婚する。

自称は [teber] あるいは [teberdji]。Abdal は Bektaşî である。Tahtacı とは信仰を同じくする。ただし、Tahtacı の人々は自分たちの独自の言葉を持たない。(なお、Yıldırım 氏によれば、Abdal, Tahtacı はともにアレヴィーとのこと。)

4. Abdal 語彙の使用状況について

周囲の Abdal ではない人々が知らない言葉を自分たちが持っているということを、MF 氏はすぐに認めた。ただし同氏によれば、自分たちの間でこの言葉を使うことはめったになく、普段はすべてトルコ語を使っている、とのことだった。ジプシーたちの言葉 [djingen dili] と Abdal の言葉が通じるかどうか質問したところ、同じ単語はなく通じないとの答えだった。

5. 調査の方法

Yıldırım 氏と林がそれぞれ別々に質問項目を用意した。Yıldırım 氏は語彙と例文、林は主に語彙について質問した。林が用意した質問は、新疆ウイグル自治区のエイヌの人々 (他称はやはり Abdal) の使う語彙を調査した際に、複数の地点から回答が得られた項目から選ばれた。エイヌ語彙のうちで、より広い地域に分布していると考えられるものである。

残念ながら、当日は土曜日だったため、MF氏は婚礼で演奏する仕事を抱えていた。そのため、時間を気にしながらのインタビューだったが、それでも約2時間余り質問に答えてもらうことができた。インタビューの内容は、MF氏の許可を得て、すべて録音および録画した。後日、録画したビデオを Yıldırım 氏とともに見ながら、我々の記録を確認・修正した。

6. 調査結果

以下が、今回の調査でMF氏に教えてもらった語彙である。(これら以外に例文や定型表現も教えてもらうことができたが、それらは含まれていない。)

最初の3桁の番号はこのリストにおける連番である。聞き取りに誤りがある可能性のある音は [] で示した。また、十分に確認できず回答全体が曖昧な時は {?} を付した。Cin., Kur., Tur. はそれぞれ、コンサルタントが、「ジプシーの言葉」、「クルド語」、「トルコ語」と報告した語である。丸括弧内の番号は、整理のための ID であるので、以下のリストでは意味を持たない。単語は、おおまかな意味分野に分類して示した。調査の際に、このような意味分野に従って質問したわけではない。それぞれの意味分野の末尾には、質問したが回答の得られなかった項目をあげた。

人間	001	ábũ	母、父 (008,009)
	002	afiret	トルコ人 (062)
	003	afa mazuk	大きい人 (067)
	004	axlw eji	賢い (176)
	005	axlw gerez	賢い (176)
	006	ede	男の兄弟 (200)
	007	dʒ[iu]wɪ , dʒiwɪ	女 (010,159)
	008	gerez nafta , gerez nauta	ハンサムな男 (162)
	009	ge dʒi	見知らぬ人 (060), Cin.
	010	giba[r] , gibaɪ	警察官 (057)
	011	gi'nav , ginav	泥棒 (171)
	012	kʰelti , kʰjelti	男、見知らぬ人 (?) (061,158)
	013	kʰefk , kef kʰ , keʰ	娘、(成人した) 娘 (013,160)
	014	ketʃi {?}	見知らぬ人 (060), Cin.
	015	kylmetʃ , kylmeʃ	クルド人 (063)
	016	marwʃ	大地主 (?) (051)
	017	mazuk kelti	大地主 (?) (050)
	018	nauta	息子 (012)
	019	teberdʒi	自分たちのこと (015)
	020	tʃatwɪwʰ	治安軍兵士 (058)

無回答の項目：私；家族；姉妹；親戚；友だち；アラブ人；医者；商人；モッラー；預言者

身体	021	dest	手 (036)
	022	dʒav	目 (027)
	023	uruf	ひげ (187)
	024	nakki , nakgi	鼻 (214), Cin.
	025	p ^h etjik	足 (037,202)
	026	puunduŋna	女性器 (174)
	027	sɛɪ	頭 (024)
	028	sɛ'ri huɪ	禿げた (023)
	029	tʃim	乳房 (034)
	030	tʃitʃi	乳房 (034)
	031	zahar , zahruɪ	口 (031)
	032	zʉk , zʉkw	腹 (038)

無回答の項目：胸

生活	033	deh	村 (221), Cin.
	034	dyk ^j [ɛ]ler	村 (154)
	035	dyke , dyke'	家 (035,117)
	036	dʒɛɪ	単語 (048)
	037	gɛɣhran	歩き回ること、物乞いをする事 (208)
	038	gires , ge[r]es	服 (全ての種類)、テント、ズボン、フェルト (026,126,185)
	039	h[o]da' , huda'	アッラー (216)
	040	je'k ^h jen , jeken	お金、金 (きん) (018,196)
	041	k ^h enɪ	お金 (157), Cin.
	042	muundara	刑務所 (198)
	043	p ^h etjik ^l lik ^ʔ	靴下、靴 (204)
	044	sɛɪlik	帽子 (025)

無回答の項目：手紙；戸；窓；階段；町；バザール；道

道具	045	bʉs	藁 (195)
	046	buɟka	弾丸 (197)
	047	dʒavluɟ	眼鏡 (028)
	048	ekfejne	武器、銃(?) (100), Cin.
	049	ekyty	武器、銃(?) (100), Cin.
	050	gødyk ^j , gødyk ^{jw} , gødyk ^ʔ	(一般的に) 容器、皿、樽、鍋、水入れ(su kabi) (096,192)
	051	hebil , hɛ'bil	紐、糸 (188)
	052	hezik ^j	木、薪 (003,152)
	053	k ^h [ɛ]r , kir	ナイフ (092)
	054	k ^h jeuɟi , k ^h jeutʃi {?}	スプーン、フォーク (209)
	055	levri	棒 (094), Cin.
	056	mazufkkiɟ	つるはし (093)
	057	pɑ't ^ʔ	武器、銃(?) (100)
	058	syjyk ^w	針 (077)
	059	teber	太鼓、楽器、アブダル (014[le],177)
	060	tʃoɟ , tʃoɟ	棒、薪 (94,152)
	061	zuhun	ズルナ (鋭い音を出す木管楽器)、民謡 (turku) (016,083)

無回答の項目：机；臼；本、ノート、ペン；麻、大麻

飲食	062	a'v , av , a'v	水、茶、コーヒー (019(le),081,102)
	063	desle keje[k']	乾杯! (153)
	064	dwbws	甘いもの (113)
	065	d3arws	とうもろこし (140)
	066	fws	卵 (116)
	067	gʲáhme	粉 (145)
	068	gøft'	肉 (112)
	069	ge beʃ	メロン、西瓜 (136)
	070	genim , ge'nim	小麦 (139)
	071	gilve	からい (115)
	072	harkut'	卵、胡桃 (116,142)
	073	hedziɹ , hedziɹ	いちじく (004,144)
	074	heɹsit'	パン (111)
	075	kʰejlɹm , kʰejlɹm	食べ物 (156)
	076	mast'	ヨーグルト (043)
	077	mevitʃ , mevitʃ[ʷ]	葡萄 (001)
	078	mwna	パン (111), Kur.
	079	mej , m[ej] , m[ej]	酒、麻薬 (069,149)
	080	pʰi:ne , pʰijne {?} , pi:ne	たばこ (022,150)
	081	pwrtʃw'	空腹な(?) (039)
	082	ʃiɹ	乳 {ミルク} (042)
	083	ʃiʷ	酒、麻薬 (069,149)
	084	tʰu'han , tu[ʷ]an	たばこ (021,150)
	085	zwlɹwɹ	ブルグル (搗いた小麦) (132)

無回答の項目: チーズ; ピラフ; りんご; 梨; 桃; 杏; 大根; ビーツ

動物	086	d3imari , d3ymari	めんどり(?) (086)
	087	gede[r] , g[e]d[e]r	ロバ (075)
	088	gej	牛 (078)
	089	g[ø]hre , gyhre	馬 (特に「車を曳く馬」) (076)
	090	hɹsbi	蚤 (107)
	091	kʰef	めんどり(?) (086)
	092	kʰeɹ , kʰ[e]r	ロバ (075), Cɹn?
	093	kʰykʰeri	おんどり (087)
	094	sej	犬 (088)
	095	tʃaura	羊、山羊 (079)

無回答の項目: 駱駝; ねずみ; 鳥; すずめ; 鳩

自然	096	kʰjeʷ , kʰjef , kʰef	石、齒 (007,032,118)
	097	serge , serge[h]	朝 (178)
	098	ʃa'v	夜、夕方 (179)
	099	veɹsinte' , veɹsinde'	雨 (106)

無回答の項目: 土; 土地; 花; 沙漠; 草; 風; 空; 山; 火; 埃

- 数量 100 dý'tene 2個(105)
 101 nq' [h] , n[q]h , n[q]fi , n[q'] ない、少ない(053,056)
 102 nohu[i] , nohur 十分な(199)
 103 p^hwɪ , pwr 多い、多すぎる(055,103)
 104 turwɪn 1個(104)
 無回答の項目：3以上
- 状態 105 barw: 大きな(217)
 106 gerez , gerež よい、金持ちの(1e)、病気でない、満腹の(?) (040,071,207)
 107 gumu ~のように(114) [トルコ語の方言形か?]
 108 hyl 割れた、破壊(097)
 109 mazuk' 大きい(人に対しても、ものに対しても)高い、年寄りの(065,110,190)
 110 murai , murar 悪い(すべてのものについて)、貧しい、悪い人(068,072)
 111 p^hyt[ukj^w , p^hyt[ɣk' , pɣt[ɣk' , pyt[ɣk' , pyt[ɣk
 子供、小さい、若い、低い(011,066,109,161,189)
 無回答の項目：ある；暑い、熱い；寒い、冷たい；尖った、鋭い；白い；黒い；赤い；病気の
- 動作 112 desle 取る、受け取る、買う(173)
 113 d3avla 見る(029)
 114 d3avlat 見せる(082)
 115 d3eɪɪɛn 話す(047)
 116 fusla 放屁する(184)
 117 giɪɪɛ 泣く(046)
 118 gujla , gujla 性交する、男性器(017,175)
 119 gy'le 排便する(183)
 120 halad^wyɪle 拉致する(?) (194)
 121 nɪetle , n[e'ɪ]tle , neɪtle , netle , netle , nitle 打つ、演奏する(084,095)
 122 numwsla 寝る、坐る(180)
 123 ø[j]uɪle , ø[ɥ]uɪle , ø^wyɪl[ɛ] 起きる、逃げる、隠れる、移住する(181,193,211)
 124 p^havlaf 殴り合う(213)
 125 ɟiɪle 排尿する(182)
 126 zu:la 性交する(215)
 127 bajna 与える(くれ!) (041)
 128 da:ne 見る(029)
 129 dɪɪlav d3eɪɪn[e] 騙す(186)
 130 d3iɪɪɛ , d3irne 話す、歌う(?), 言う(?) (052(1e),085)
 131 k^heɪrne 喉を切る、黙る(220)
 132 kekne 笑う(045)
 133 pine 与える(くれ!) (041)
 134 afet , afet , [h]afet 洗う、投げる、脱ぐ(203)
 135 metena ol , metena: ol 死ぬ(205)
 136 pytɣkol 子供が産まれる(206)
 137 k^hej , ke'j , keɟ 飲む(020,070)
 無回答の項目：キスする；恥じる；燃える

7. まとめ

以上が、今回の予備的な調査で得られた語彙である。非常に短時間のインタビューであり、しかも、社会的背景など、調べることができなかった事柄も多い。その意味で不十分な調査であるものの、得られた語のほとんどが、派生接辞などを除けば、トルコ語あるいはチュルク語系の要素を含んでいないことは明らかとなった。さらに、これまで新疆ウイグル自治区 (Hayasi et al. 1999, 林他 2002)、ウズベキスタン (Trojtskaja 1948)、トルコ (Caferoğlu 1951, Tietze 1982, Acar 1997) で行われた、非定住生活を送る Abdal などのグループの持つ秘密語に関する調査の結果と比較すると、わずかではあるが共通する語彙が見いだせる。今後は、それぞれの語彙データを比較しつつ、これらの集団の間にどのような関係が成り立つかを検討する必要があるだろう。

参考文献

- Acar, Turgut (1997) Doğu Anadolu'da yaşayan gizli bir meslek dilinin yapısı ile Türkçe'nin benzerlikleri. In: *XI. Milli Türkoloji Kongresi, 15-17 Eylül İstanbul, 1997*, 9 - 15.
- Caferoğlu, Ahmet (1951) Anadolu illeri ağızlarından derlemeler. İstanbul: İstanbul Üniversitesi Edebiyat Fakültesi.
- Hayasi, T., Sabit Rozi, Tahirjan Muhämmät & Wang Jianxing (1999) A Šäyxil vocabulary. Kyoto: Department of Linguistics, Kyoto University.
- 林 徹, ターヒルジャン・ムハツマト, サーピト・ローズィー, 王建新 (2002) 「ホータン・エイヌ語彙資料」『ユーラシア周縁部チュルク系諸言語の調査研究 (平成11年度～平成13年度科学研究費補助金 (基盤研究 (A) (1)) 研究成果報告書』東京, 373 - 439.
- Trojtskaja, A. L. (1948) Abdoltili: Argo tsexa artistov i muzykantov crednej azii. *Sovetskoe Bostokovedenie*, 5, 251 - 274.
- Tietze, Andreas (1982) Zum Argot der anatosischen Abdal. *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae*, 36/1-3, 521 - 532.